

2021年12月1日

物流協力会社各位

住化ロジスティクス株式会社
営業本部

誤出荷・誤納入防止の取り組み
『読み上げ確認』完全実施のお願い

拝啓 貴社ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

さて、コロナ禍におきまして皆様には大変なご苦勞、ご負担をおかけしております。厚く御礼申し上げます。弊部所管の品質成績は、今までのところ、大きなトラブルの発生はなく推移しております。これは、ひとえに皆様の日頃のひとかたならぬご尽力の賜物にほかなりません。心から敬意を表し御礼申し上げます。

しかしながら、今年度は、11月30日現在、重大事故にならなかったものの「誤出荷・誤納入」が4件発生しており、決して良くない成績となっております。また、その原因は4件いずれもが確認不足でした。これから何かと多用な年末年始を迎えます。つきましては、下記の通り『読み上げ確認』（昨年末と今年6月にお願いしましたものです）の完全実施を、今一度、徹底くださいますようお願いいたします。

コロナ禍で非常に厳しい状況でございますが、引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 事務作業者は、発注書と貴社がローカルシステム等で作成した出荷指示書等の「品名」、「ロットNo.」、「数量」、「納入先」、「住所」、「特記事項」を最後の一文字まで声を出して確実に読み上げて（つぶやいて）照合確認する。
2. 倉庫作業者は、荷揃え後に、出荷指示書と現物の「品名」、「ロットNo.」、「数量」、「特記事項」を最後の一文字まで声を出して確実に読み上げて、1つの間違いもないように照合確認する。
3. 倉庫作業者は、商品を積み込む際に、伝票と現物の「品名」、「ロットNo.」、「数量」、「納入先」、「住所」、「特記事項」を最後の一文字まで声を出して確実に読み上げて、乗務員と、二者立会で定められた手順に従って、1つの間違いもないように照合確認する。
4. 乗務員（庸車、路線含）は、出発前および納入先到着時に、伝票や荷札の「納入先」、「住所」、「特記事項」を最後の一文字まで声を出して確実に読み上げて、納入先を正しく確認する。
5. 乗務員（庸車含）は、納入先で商品を引き渡す前に、伝票と現物の「品名」、「ロットNo.」、「数量」、「特記事項」を最後の一文字まで確実に読みあげて、1つの間違いもないように現物確認する。

以上

誤出荷・誤納入の事例

1. 2021年4月

A工業様に納入するべきところを同じ市内にあるB工業様に誤納入した。乗務員は、住所がC市だったことで以前納入経験のあるB工業と思い込み、出発前及び納入時に伝票確認をしなかった。

チェックポイント

1. 乗務員は、「伝票の納入先」、「住所」を間違いないように読み上げ確認しているか
2. 同一会社別事業所や類似納入先があることを乗務員が知らないと思いこみが発生しやすいです『最後の一文字まで読み上げ確認』が必要です

2. 2021年8月

納入先A社へ品名Aを3缶、納入先B社へ品名Bを10缶を納入すべきところ、1缶テレコで出荷し、誤納入した。

前日に乗務員Mが、工場から18L缶を合計13缶引き取り、倉庫の出荷場所に右の様にパレット仮保管した。

倉庫作業者は、入荷検品する際に、全部の缶の品名を確認しなかった。出荷の際にも同様に確認しなかった。

それぞれの納入先への配達便の乗務員N、乗務員Oも、バラで積み込む際・荷降ろし前に、全部の缶の品名を確認しなかった。



黒：品名A、赤：品名B

倉庫作業者はレ点の缶のみ現物確認した。

※入荷・出荷検品倉庫作業者は同一

チェックポイント

倉庫出荷作業、乗務員

1. 積み込み前に、伝票と現物の「品名」・「ロットNo.」、「数量」を1つも間違いもないように『読み上げ確認』する、現物の相互確認をする

乗務員

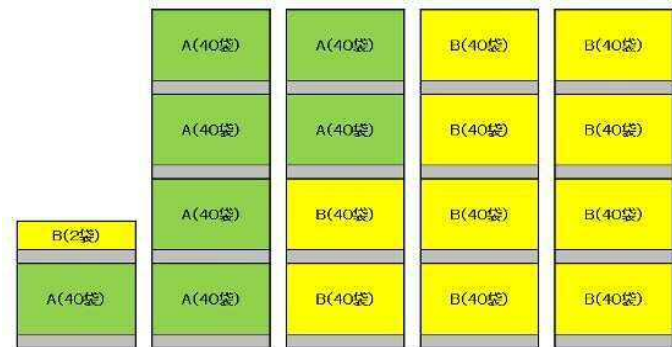
1. 積み込み後に、伝票と現物の「品名」・「ロットNo.」、「数量」を1つも間違いもないように『読み上げ確認』する、納品先毎の積載位置の確認を行う
2. 荷降ろし前に、伝票と現物の「品名」・「ロットNo.」、「数量」を1つも間違いもないように『読み上げ確認』する

間違ってお届けした化学品を（ロット違いであっても）をお客様が使用されると一大事になります。1つの間違いもないよう『現物確認』と最後の一文字まで100%の『読み上げ確認』をお願いいたします。

3. 2021年10月

紙袋製品94袋（出荷指示Aロット）のうち2袋について誤ったロット（Bロット）の製品を出荷。
同じ間室の手前に段積みされていた上段の端数品（Bロット2袋）のロットNo.を確認しなかった。
棚票表示がなされていなかった。

荷揃え後に、帳簿残数（出荷指示書に記載）
と現物残数の照合確認をしなかった。



4. 想定事例

1ロット15袋を出荷すべきところ、別のロットの5袋を混在させて路線出荷した。正しいロットの製品が保管されたBOX（36袋）の隣にパレット積み保管されていた当該5袋を同じロットと思い込み、ロットNo.を見ずにピッキングした。間違った5袋を出荷用パレットに取り、正しい10袋をBOXから取ってその上に乗せた。荷揃え者も出荷前検品者も、上段のロットNo.は「読み上げ確認」したが、下段5袋のロットNo.は確認しなかった。

棚票（品名・ロットNo.・残数を記載）は運用されておらず、ピッキング前およびピッキング後に、帳簿残数（出荷指示書に記載）、現物残数、棚票残数の照合確認はされていなかった。



チェックポイント

1. 出荷指示書と現物の「品名」、「ロットNo.」を1つの間違いもないように現物の「品名」、「ロットNo.」を確認しているか、どのようにして1個の間違いもないように確認しているか

ピッキングする際に、現物の「品名」、「ロットNo.」を見て確認しているか
荷揃えした後に、検品時に「ロットNo.」が外から見えるように積み付けているか

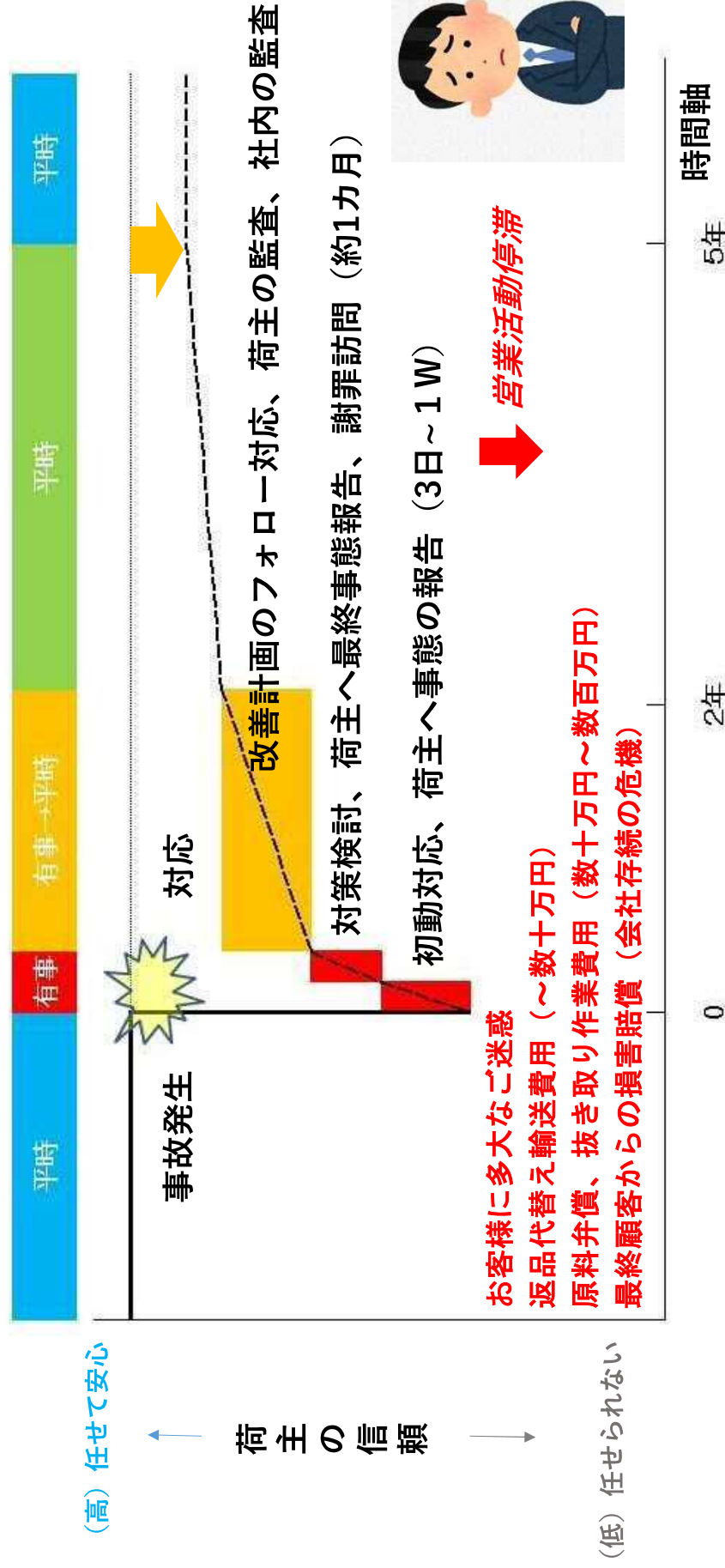
2. 保管時の間室管理において、視覚的に似通った製品（異なったグレード等）を同じ列等で保管する際、製品毎の棚票管理をしているか

ピッキング前およびピッキング後に、帳簿残数、現物残数、棚票残数の照合確認をしているか

3. グレードやロットが変わるところに仕切りを入れ、違う製品が保管されていることが分かるよう対策がなされているか

“なぜ誤出荷・誤納入防止なのか”

事故後のマネジメント



誤納入した商品が使用されて最終製品の損失という事態にならなくても、大変な労力を要します。一度失った信頼を回復することはできません。

いつもありがとうございます
読み上げ確認の完全実施をお願いします



発注書と指示書
のつぶやき確認



伝票と現物
の読み上げ確認



積込時に
乗務員さんと
読み上げ
相互確認



配達出発前に
納入先名、住所
を読み上げ確認



お届け先で
伝票と現物
の読み上げ確認

